

調布「憲法ひろば」

WEB サイト <http://www.geocities.jp/chofu9jou/index.html>

第27号

12月26日
2006年

発行: 憲法「九条の会」調布のひろば

〒182-8511 調布市国領町 2-5-15
あくろす2階 市民活動支援センター内
メールボックス6番
FAX 番号: 042-483-1566 大野気付

E-Mail: chofu9jou@yahoo.co.jp

第21回 憲法ひろば

MD構想は何を守る？

まず島川さんは、北朝鮮がミサイルを撃ってくることはありえないとしたうえで、日本のミサイル防衛(MD)構想が日本を守るためのものでないことを指摘しました。奥尻島沖のイージス艦と青森県の



司会を務めた富永世話人。下は熱心に討議する参加者

米軍基地抱える日本だからできること

12月17日(日)、あくろすホールで開いた調布「憲法ひろば」第21回例会には50人が参加。「北朝鮮問題と日米安全保障体制」と題した島川雅史さん(立教女学院短期大学)のお話は「目から鱗」の連続でした。

明かされた日米一体化の軌跡

ついで話は、湾岸戦争以降、どのように日米一体化が進んだのか、という本題に。「金だけ出して人を出さなかった」といわれた湾岸戦争では、アメリカにとつて英仏の軍勢力より、日本の三五億ドルの資金力のほうがはるかに効果的だったにもかかわらず、それでも戦後、海上自衛隊の掃海艇を派遣する結果となり、「実質的な分担」を日本が行なう意味で大きな転換となったこと。九三〜九四年の朝鮮半島核危機は、第二次朝鮮戦争の半歩手前の状況であり、その場合

の日本の協力体制を得るための日米安保再定義が急務となったこと。九・一一以降、日米一体化を軍事面でも推進する動きが強まり、アフガン戦争ではアラビア海で海上自衛隊が「ガンソリンスタン

展望はどこにある？

「マスコミが必要な情報を伝えないなかで、どうやって確かな情報を得ればいいのか」「これから私たちはどうすればいいのか」という会場からの質問に、島川さん

ドーを務め、イラク戦争ではサマワに陸上自衛隊が駐屯し、後方支援から前線参加に転じたこと。ただし、実は陸上自衛隊はほとんど実務的な役割を果たせておらず、サマワを隠れ蓑にしながら、航空自衛隊の輸送任務と、海上自衛隊の「ガンソリンスタンド」任務が、アメリカにとつては大きな意味をもっていたこと。フアルージャで虐殺行為を行なった米軍は沖繩の海兵隊だったこと。さらに費用面・効果面から疑問視され、イギリスもカナダも降りたMD構想に日本は積極的に応じていること。日本政府は日米安保条約を、日本が侵略された時にアメリカが守ってくれる条約と説明しますが、米国の戦略報告やインターネット情報報告を駆使する島川さんの報告は、日本の公式見解をアメリカが否定しており、アメリカのための軍事一体化同盟であることを浮き彫りにしました。



北朝鮮がミサイルを撃ってくることはありえない…と島川さん



「マスコミが必要な情報を伝えないなかで、どうやって確かな情報を得ればいいのか」「これから私たちはどうすればいいのか」という会場からの質問に、島川さん



お知らせ

来年の日程は1月6日の世話人会で相談しますので、本号は12月例会の様子だけをお伝えします。来年もよろしくお願ひします。良い年をお迎へください。